

* 東京天文台の本館の写真発見

1945年2月8日未明、消失した東京天文台の本館の写真は何枚か残っているがそれほどごく一部か航空写真であった。2009年12月11～12日のアーカイブスシンポジウムに参加した「渋谷星の会」の小川誠治氏が昭和6年9月1日発行の新光社版の「萬有科学体系普及版」に東京天文台本館の写真が掲載されているとその本を貸してくださった。写真1がその東京天文台の本館の写真である。



写真1 萬有科学体系普及版に掲載されている東京天文台本館

これほど全容が分かる写真は初めてである。この本館は1945年(昭和20年)に消失したことから、戦災で焼失したと思われがちであるが火災の原因の詳細は不明で「漏電」と言い伝えられている。当夜の宿直は斉藤国治、辻 光之助両氏だったといくつかの情報がある。事実をはっきりさせるためには宿直の方に過失があったわけではないから、ここにお名前を書いてもかまわないと思う。辻光之助氏についてはご子息の証言であるから確かであろう。この本館は大正10年3月31日竣工、1885平米の大きな建物であった。現存する東京天文台の建物では1号官舎が大正4年で最も古い、これは解体され再建されたものであり、第一赤道儀室もこの本館と同じ大正10年竣工である。

建設工事中の写真2も残っており、ロータリー辺りから正面玄関を撮影した写真3もあ

る。これらの写真から、この本館は平屋だったことが分かる。玄関前のロータリーは現在もその面影を残して正門の正面に存在している。

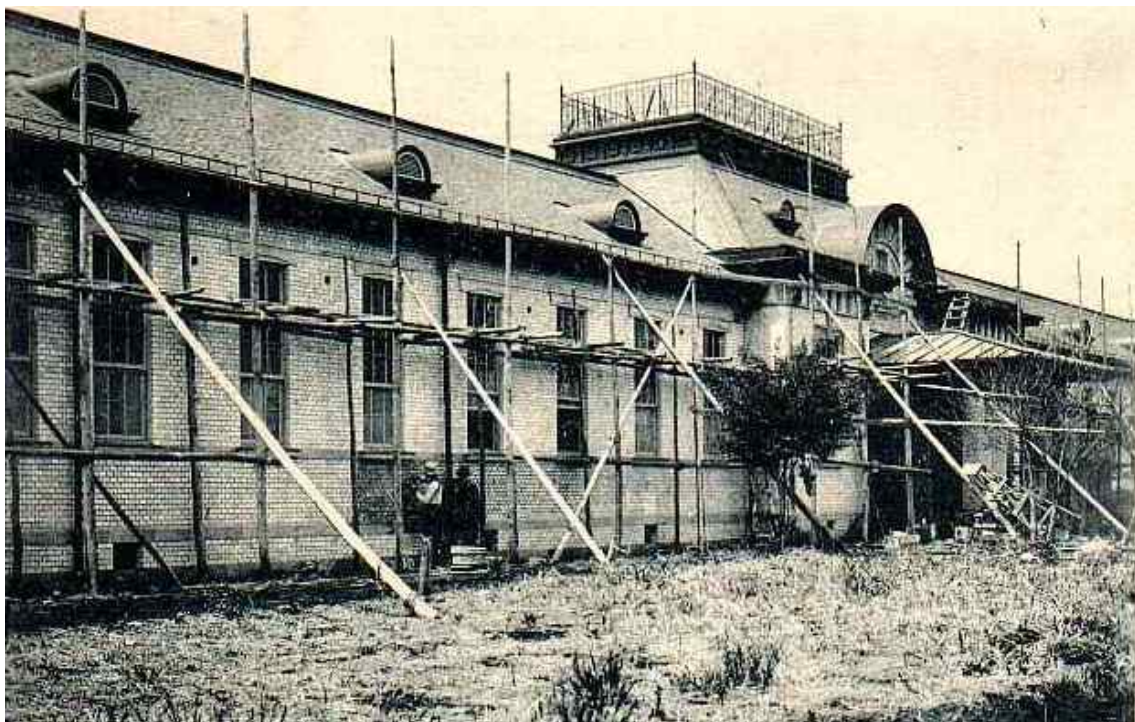


写真2 建設中の東京天文台旧本館



18 三鷹の旧本館玄関

写真3 東京天文台旧本館の玄関

また戦争末期の4月に帝国陸軍の手によって倒された国際報時受信の60m鉄塔の上から撮影された写真4、そして平面図面（写真5）も残っている。



21 三鷹時代初期の構内風景(北からの眺め)

写真4 60m鉄塔から撮影されたと思われる本館が写った写真

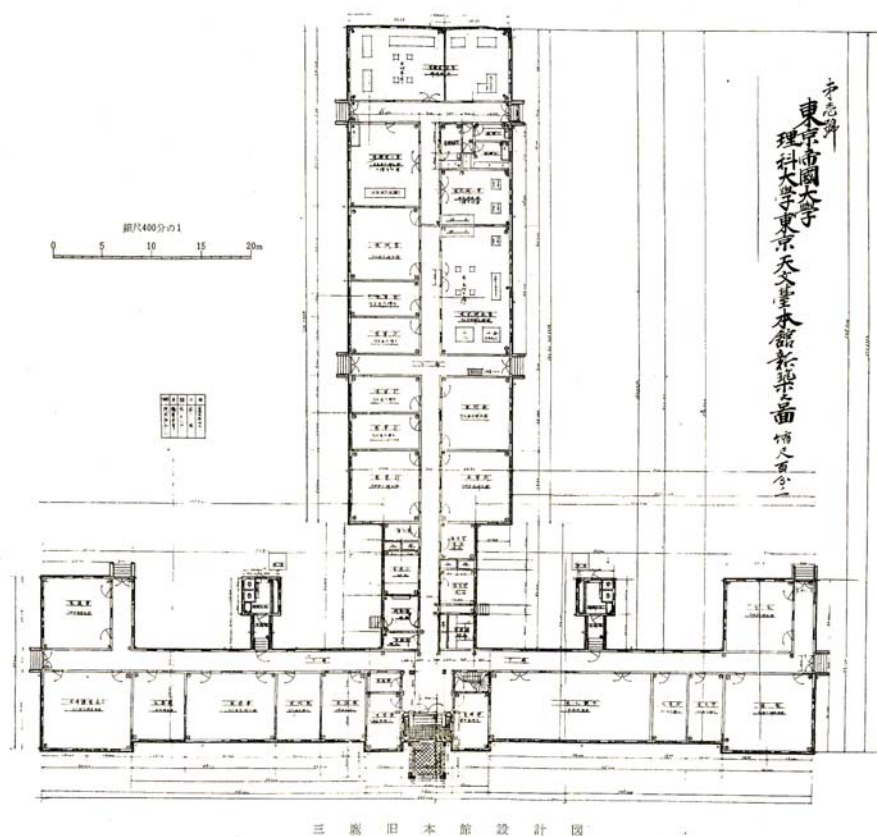


写真5 旧東京天文台本館の平面図

小川氏からの情報で東京天文台旧本館の在りし日の勇姿を見ることが出来、残っていたいくつかの写真と共に平面図をも再録した。大正10年(1921年)建設であるから、100年にはならないが、残っていれば素晴らしい建物で、緯度観測所の本館が保存され、有効に利用されたようにこの建物もそのようになったかもしれないと思うと昭和20年の消失は残念である。当時の施設配置図(図1)も載せておこう、そのほうが昔が偲ばれる。

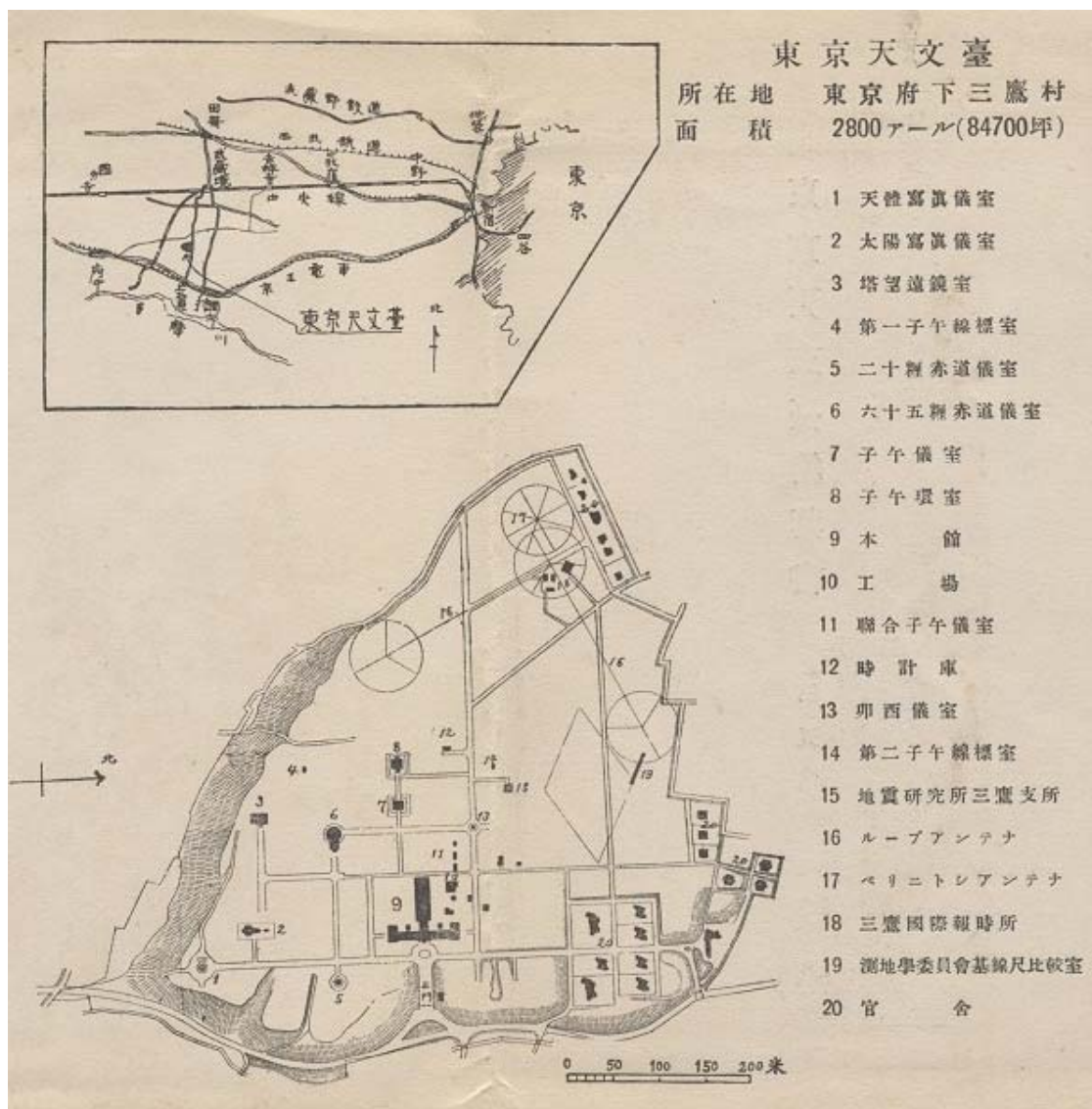


図1 戦前の東京天文台施設配置図 本館の形がよく分かる